

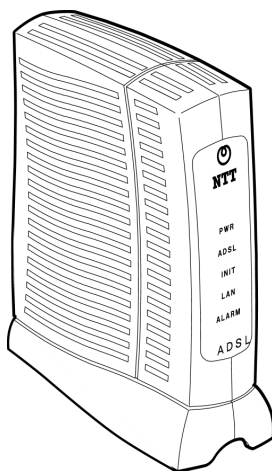


ADSLモデム－MSⅡ

取扱説明書

このたびは、ADSLモデム－MSⅡをご利用いただきまして、まことにありがとうございます。

- ご使用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。
- お読みになったあとも、本装置のそばなどいつも手もとに置いてお使いください。



はじめに

ご使用にあたってのお願い

本商品のご利用にあたって、当社のレンタル電話機がご不要となった場合は、局番なしの116 番または当社の営業所等にご連絡いただければ、「機器使用料」は、不要となります。

本装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。本装置は家庭環境で使用することを目的としていますが、本装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

- ご使用の際は取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 本装置の仕様は国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。This equipment is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
- 本装置の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害等、純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本装置を設置するための配線工事および修理には、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事は、違法となりまた事故のもととなりますので絶対におやめください。
- 本装置を分解したり改造したりすることは絶対に行わないでください。
- 本書に、他社商品の記載がある場合、これは参考を目的としたものであり、記載商品の使用を強制するものではありません。
- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、当社のサービス取扱所へお申し付けください。
- この取扱説明書、ハードウェア、ソフトウェアおよび外観の内容について将来予告なしに変更することがあります。

Microsoft Windows95/98/Me/2000/XP、および、Microsoft Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Macintosh は米国 Apple Computer, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。

Netscape Communicator は、米国 Netscape Communications Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Ethernet は米国 XEROX 社の登録商標です。

VxWorks は米国 Wind River Systems, Inc. の登録商標です。

本取扱説明書に記載されている会社名・商品名は各社の商標または登録商標です。

®マークおよび™表記については本文中に明記しません。

This product includes software developed by the Apache Group for use in the Apache HTTP server project (<http://www.apache.org/>) .

安全にお使いいただくために必ずお読みください

この取扱説明書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本商品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。

その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。本書を紛失または損傷した時は、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店で求めください。

本書中のマーク説明

	警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
	お願い	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。
	お知らせ	この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。



警告

- 万一、煙が出ている、へんな臭いをするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源アダプタを電源コンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認して、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。
- 万一、本装置を落したり、キャビネットを破損した場合は、すぐに電源アダプタを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。
- 万一、内部に水などが入ったり、本装置をぬらした場合は、すぐに電源アダプタを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。
- 本装置の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、すぐに電源アダプタを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。特にお客様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本装置や電源アダプタを分解・改造したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 本装置のキャビネットは外さないでください。感電の原因となることがあります。指定以外の内部の点検・調整・清掃・修理は、当社のサービス取扱所にご連絡ください。
- 異常音がしたり、キャビネットが熱くなっている状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源アダプタを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。
- 本装置のそばに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬用品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となることがあります。
- ふろ場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは設置および使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- AC100Vの商用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 電源アダプタコードに傷をつけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したりすると電源アダプタコードが破損し、火災・感電の原因となることがあります。電源アダプタコードが傷んだら、電源アダプタを電源コンセントから抜き、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。
- ぬれた手で電源アダプタを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源アダプタは必ず付属のものを使用し、それ以外のものは絶対にお使いにならないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 付属の電源アダプタを本装置以外には使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 電源アダプタを壁掛けコンセントに差し込む場合は、コードが下にくるようにして、逆向きにしないでください。電源アダプタが自重で傾いてプラグ部分が露出する可能性があります。そのままご使用になると、感電やショートによる発火の原因となります。
- テーブルタップや分岐電源コンセント、分岐ソケットを使用した、タコ足配線はしないでください。火災・感電の原因となることがあります。



警告

- お客様がご用意された機器を本装置に接続してお使いになる場合は、あらかじめ当社のサービス取扱所に確認してください。確認できない場合は、絶対に接続して使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 本装置を移動させる場合は、電源アダプタを電源コンセントから抜き、電話機コードを差込口から抜いて、外部の接続線を外したことを確認のうえ、行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源アダプタを電源コンセント（AC100V）に差し込む時は、確実に差し込んでください。電源アダプタの刃に金属などが触れると、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源アダプタを電源コンセントから抜く時は、必ず電源アダプタの本体を持って抜いてください。電源アダプタコードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源アダプタは、ほこりが付着していないことを確認してから電源コンセントに差し込んでください。ほこりにより火災・感電の原因となることがあります。

お使いになる前に（設置環境）



注意

- 直射日光の当たるところや、ストーブ、ヒータなどの発熱器のそばなど、温度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。
- 調理台のそばなど油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所、鉄粉や有毒ガスが発生する場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。また、本装置の上にものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。
- 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。
- 本装置の前後左右3cm、上3cmには、壁や物がない場所に縦置きで設置してください。換気が悪くなると本体内部の温度が上がり、故障の原因になります。
- 屋外には設置しないでください。屋外に設置した場合の動作保証はいたしません。
- 温度5℃～40℃・湿度5%～85%で、結露しない場所に設置してください。温度や湿度がこの範囲を越えたり、結露が発生すると故障の原因になります。
結露とは、空気中の水蒸気が金属板の表面等に付着し、水滴となる現象です。本装置を寒い場所から急に暖かい場所に移動させたような時には、本体内部に結露が発生し、故障の原因となります。万一結露した場合は、起動しない状態で放置しておき、完全に乾燥してから電源を入れてください。
- 本装置は安定した水平なところに縦置きに設置してください。
- 本装置のキャビネットを開けて使用しないでください。キャビネットを開けられた場合は、本装置の保証対象外といたします。

お使いの時



注意

- 近くに雷が発生した時は、電源アダプタを電源コンセントから抜いてご使用をお控えください。雷によっては、火災・感電の原因となることがあります。
- 本装置や電源アダプタを熱器具に近づけないでください。キャビネットやコードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 本装置の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと本商品の内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。次のような使い方はしないでください。
 - ・じゅうたんやふとんの上に置く。 ・テーブルクロスなどをかける。
 - ・毛布やふとんをかぶせる。 ・横置きにする。
 - ・本棚、タンスの中、押入の中など風通しの悪い場所に置く。
- 長期間ご使用にならない時は、安全のために必ず、電源アダプタを電源コンセントから抜いてください。
- お手入れをする時は、安全のため必ず電源アダプタを電源コンセントから抜いてください。
- 電源コードには、延長コードは使わないでください。火災の原因となることがあります。
- 本装置に乗らないでください。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。こわれてけがの原因となることがあります。
- 電源アダプタと電源コンセントの間のほこりは、定期的（半年に1回程度）に取り除いてください。火災・感電の原因となることがあります。

取り扱いについて



お願い

- ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。本装置の変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどい時は、薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れを拭き取り、柔らかい布でからぶきしてください。
- 落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。
- 本装置に殺虫剤等の揮発性のものをかけたりしないでください。また、ゴムやビニール、粘着テープ等を長時間接触させないでください。変形、変色の原因になることがあります。

置き場所について



お願い

- 製氷倉庫など特に温度が下がるところに置かないでください。本装置が正常に動作しないことがあります。
- 電気製品・ＡＶ・ＯＡ 機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、電気こたつ、インバータエアコン、電磁調理器など）。
 - ・磁気や電気雑音の影響を受けると、雑音等が大きくなったり、通信ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
 - ・テレビ、ラジオなどに近くと、受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
 - ・放送局や無線局などが近く、雑音等が大きい時は、本装置の設置場所を移動してみてください。
- 硫化水素が発生する場所（温泉地）などでは、本装置の寿命が短くなることがあります。

目 次

はじめに	i
ご使用にあたってのお願い	i
安全にお使いいただくために必ずお読みください	ii
目 次	vii
ADSL モデム—MS II の特長	viii
ADSL に関するご注意	viii
1 お使いになる前に	1
1-1 セットの確認	1
1-2 ADSL モデム—MS II の各部の名称と機能	2
1-3 操作の流れ	4
1-4 ADSL モデム—MS II の設置	5
1-5 ADSL モデム—MS II を接続する	6
1-6 ADSL モデム—MS II とパソコンの電源を ON にする	8
2 インターネットへの接続	11
3 パソコンのネットワーク設定	13
3-1 TCP/IP の設定	13
3-2 IP 設定の確認	20
4 Web 設定	25
4-1 設定 Web 画面の表示	25
4-2 ADSL/IP 設定	27
4-3 ログインパスワードの変更	30
4-4 時刻設定	32
4-5 設定の初期化	33
4-6 機器状態・ログ	34
4-7 ADSL 再接続	36
4-8 再起動	37
5 付録	39
5-1 故障かなと思ったら	39
5-2 初期化方法	42
5-3 バージョンアップ	45
5-4 用語集	48
5-5 仕様一覧	52
5-6 保守サービスのご案内	53

ADSLモデム－MSⅡの特長

- ・ インターネットへの高速・常時接続
ADSL 技術の採用で、一般公衆回線を使用して、従来のモデムのおよそ 10～200 倍の通信速度を実現しています。
- ・ インターネット接続中の、電話やファクシミリの利用
インターネットに接続した状態で、従来通りの方法で電話やファクシミリを利用することができます。
- ・ Web ブラウザを利用した簡単設定、状態表示
Web ブラウザのメニュー形式画面から、必要な設定を行うことができます。
また、ADSL ポートや LAN ポートの状態やリンク速度を Web ブラウザから確認することができます。
- ・ ログ蓄積機能
ADSL リンクが切断した時刻など、モデムの動作に関するログを記録しています。Web ブラウザにより参照することも可能です。
- ・ ネットワーク設定の簡略化
DHCP サーバ機能を搭載しているため、LAN ポートに接続するパソコンのネットワーク設定を簡略化できます

ADSLに関するご注意

本商品をご使用していただくにあたり、下記の内容をご確認ください。

- ・ ADSL のサービス提供地域であっても、設備、回線等の都合により本商品をご利用できない場合があります。
- ・ 遠隔検針（ノーリング通信サービス）や警備保障、回線自動選択装置（ACR）等の電話回線を利用したサービスを利用されている場合、それらのサービスに支障をきたす場合があります。
- ・ ADSL 区間の距離や設備状況、他回線からの影響、お客様宅内で接続されている通信設備（ACR）等の影響により最大通信速度が当初より得られない場合や、通信速度が変動する状態または通信ができない状態となる場合があります。
- ・ ADSL によるインターネット常時接続をご利用の場合、ネットワークを介して外部からの不正侵入および情報搾取等の危険が増えます。必要に応じて、お客様のパソコン上にファイアウォールのソフトウェアをインストールする等の対応をお願いいたします。
- ・ ADSL によるインターネット常時接続の設定をする場合、フレッツ・ADSL のセットアップマニュアル等をご覧ください。
- ・ 本商品は西日本電信電話株式会社が提供する ADSL 用の装置であり、他の ADSL 事業者様が提供するサービスにはご利用できません。

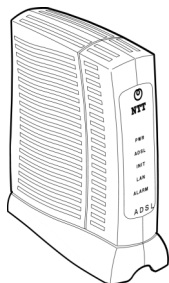
1 お使いになる前に

1

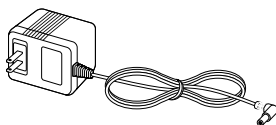
1-1 セットの確認

本商品には、製品本体および付属品が入っています。まずこれらがすべて揃っているかどうか確認してください。

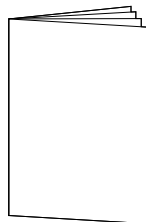
万一、足りないものがありましたら、当社のサービス取扱所もしくはお買い上げになりました販売店までお申し付けください。



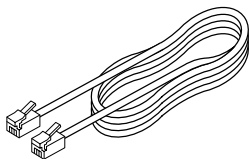
ADSLモデムMS II
本体 1台



電源アダプタ 1個



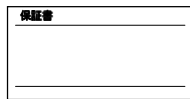
取扱説明書(本書)
1冊



LAN ケーブル
(ストレート カテゴリ 5、
長さ：約 2m)



電話機コード 1本
(長さ：約 3m)



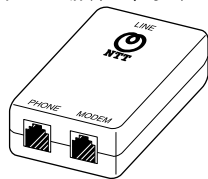
保証書 1枚



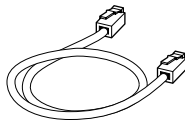
お知らせ

レンタル品の場合、保証書は添付されておりません。

スプリッタセットの場合は、以下のものが添付されています。



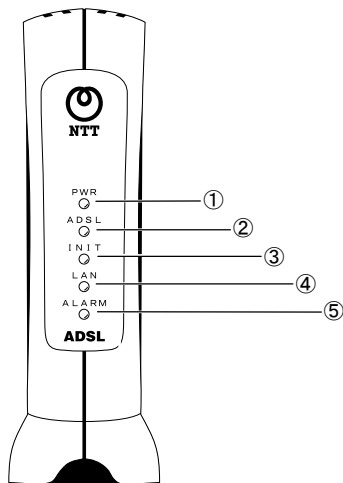
ADSLスプリッタ 1個



電話機コード 1本
(長さ：約 20cm)

1-2 ADSLモデム-MSⅡの各部の名称と機能

1-2-1 前面図



① PWR ランプ (パワーランプ)

電源の状態を示しています。

緑色に点灯：通電中

② ADSL ランプ

ADSL リンクの状態を示しています。

緑色に点灯：ADSL リンクアップ時

緑色に点滅：トレーニング中

または、ADSL リンクアップ後、データが流れている時

③ INIT ランプ

緑色と橙色に点滅：初期化設定での動作時

消灯：通常の運用時

④ LAN ランプ

Ethernet リンクの状態を示しています。

緑色に点灯：LAN リンクアップ時

緑色に点滅：データが流れている時

⑤ ALARM ランプ

本装置の機器障害の有無を示しています。

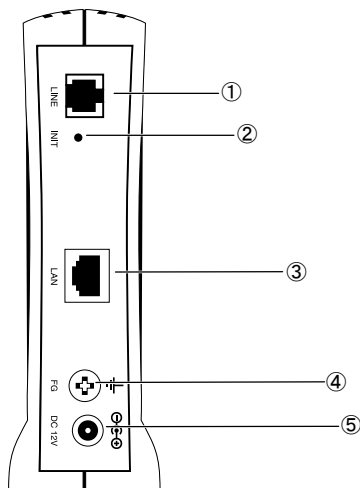
赤色に点滅：機器障害が発生している時



お知らせ

各ランプの状態は、本体正面からご確認ください。(正常時には、PWR、ADSL、および LAN ランプが緑色に点灯もしくは点滅します。)

1-2-2 背面図



① LINE ポート (2 線式)

電話回線を接続します。

② 初期化設定起動スイッチ (INIT)

3 秒間以上押しつづけると、初期化設定で再起動します。



お知らせ

本スイッチのご使用方法については、「5-2 初期化方法」(👉 p.42)を参照してください。

③ LAN ポート

パソコンや Ethernet HUB 等の Ethernet LAN 機器を接続します。

④ FG 端子 (アース端子)

アース線を取り付ける端子です。



お知らせ

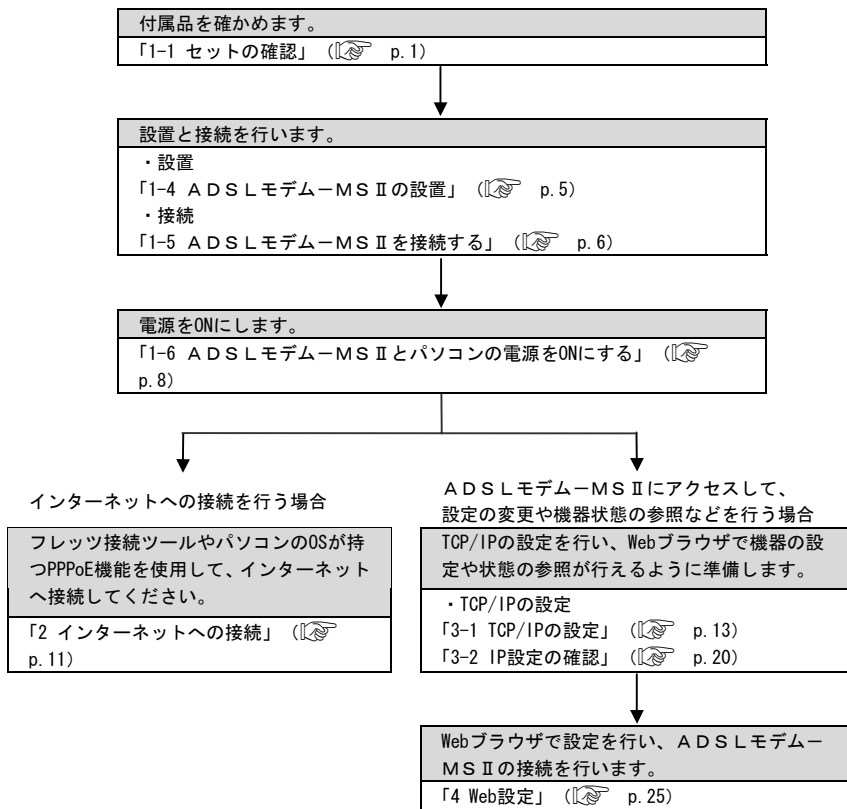
アース線は添付されておりません。

⑤ 外部電源入力端子

専用の電源アダプタを接続します。

1-3 操作の流れ

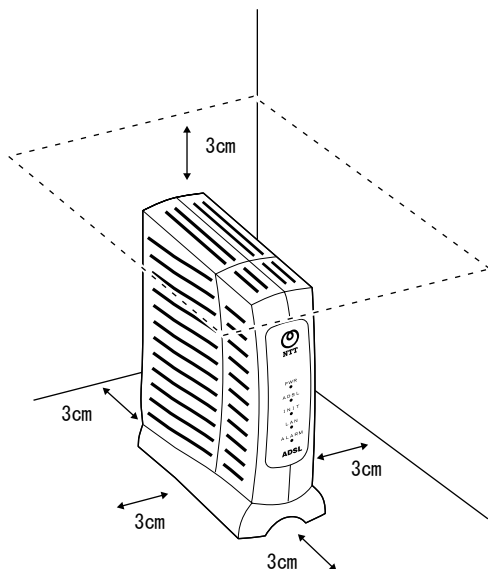
本商品をお使いになる前に必要な準備や操作の大まかな流れを次に示します。



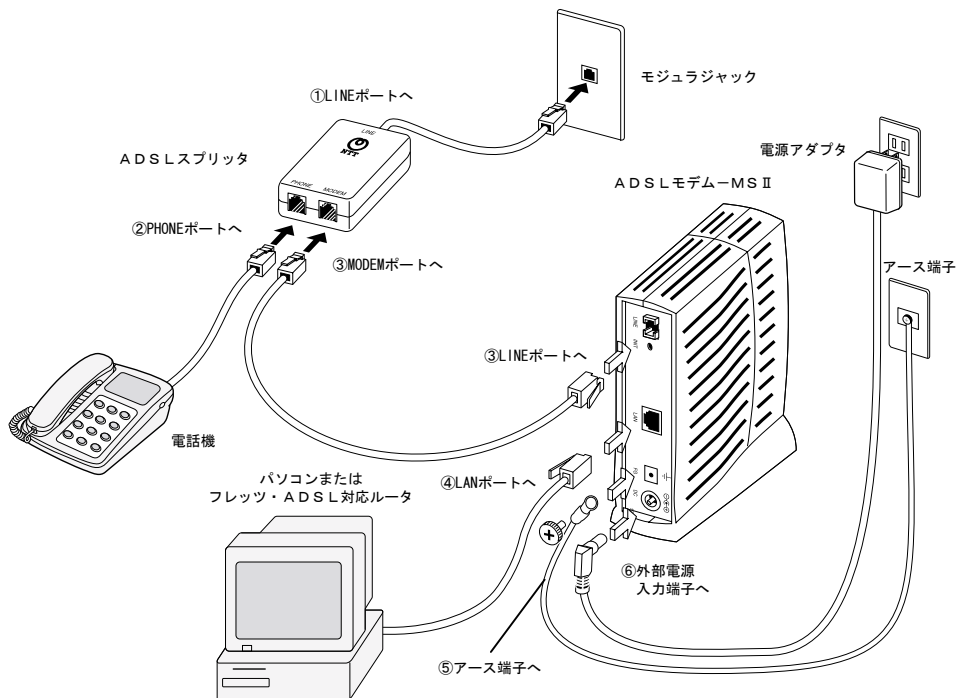
1-4 ADSLモデム-MSⅡの設置

- 1** 安定した水平なところに縦置きで設置してください。

本装置の前後左右3cm、上3cmには、壁や物がない場所に設置してください。



1-5 ADSLモデム-MS IIを接続する



STOP お願い

電話機とADSLモデム-MS IIを同じ電話回線に接続する場合は、ADSLスプリッタを接続する必要があります。電話機とADSLモデム-MS IIを同じ電話回線に接続しない場合には、ADSLスプリッタを接続する必要はありません。ADSLモデム-MS IIを、付属の電話機コードで電話回線に直接接続してください。

STOP お願い

ADSLスプリッタは単なる分岐装置ではありません。ADSLスプリッタには通話用の低周波と、データ通信用の高周波を分離する回路が内蔵されており、単に結線されただけの分岐装置では代用できません。

- ① ADSLスプリッタのLINEポートとモジュラジャックを、ADSLスプリッタに添付された電話機コード(20cm)で接続します。

- ② ADSLスプリッタのPHONEポートに電話機を接続します。



お知らせ

電話機接続用の電話機コードは付属しておりません、現在ご使用中の物をお使いください。

- ③ ADSLスプリッタのMODEMポートとADSLモデム-MSⅡのLINEポートを、本装置に添付の電話機コード(3m)で接続します。

- ④ ADSLモデム-MSⅡのLANポートとパソコンまたはフレッツ・ADSL対応ルータを、本装置に添付のLANケーブル(ストレート)で接続します。(Ethernet HUB等を接続する場合に、クロスケーブルが必要な場合があります。Ethernet HUB等の取扱説明書で、使用するLANケーブルの仕様を確認してください。)

- ⑤ FG端子とアース端子を、市販のアース線で接続してください。



お知らせ

アース線は添付されていません。

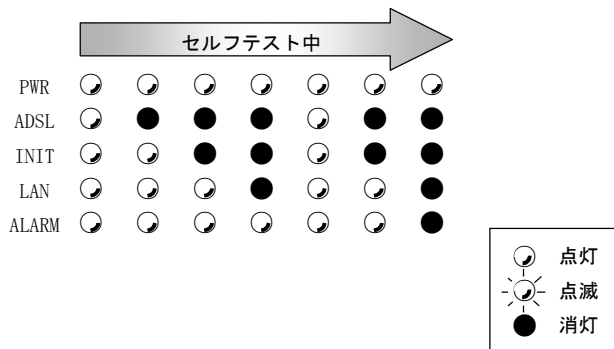
- ⑥ 電源アダプタをADSLモデム-MSⅡの外部電源入力端子に接続します。電源アダプタをコンセントに差しこむと、ADSLモデム-MSⅡのPWRランプが緑に点灯することを確認してください。

1-6 ADSLモデム-MS II とパソコンの電源をONにする

ADSLモデム-MS IIの接続が正しく行われていることを確認した後、次の操作を行ってください。

- 1 ADSLモデム-MS IIの電源を入ると、本体前面にあるランプが点灯することを確認してください。

電源を入ると、自動的にセルフテストが行われます。

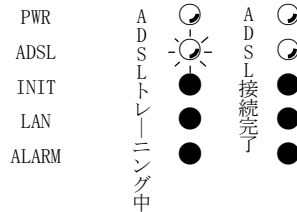


ALARMランプが消灯したら、セルフテストが完了です。ALARMランプが点滅していなければ、ADSLモデム-MS IIが正常に動作していることを示しています。

お願い

セルフテストによって異常が発見された場合は、ALARMランプが点滅します。再度設定を見直し、それでも改善されない場合は、販売店までお問い合わせください。 (「5-1 故障かなと思ったら」p.39)

- 2** セルフテスト完了後、本体前面にあるランプが以下のように推移することを確認してください。



お願い

ADSLランプは、ADSLサービスが開始されていなければ、点滅を開始しません。また、電話線コードが正しく接続されていなかったり、ADSL側で障害が発生したりすると、点灯しなかったり、点滅を繰り返したりすることがあります。 (☞ 「5-1 故障かなと思ったら」 p.39)



お知らせ

LANポートとパソコンがLANケーブルで正しく接続されて、パソコンの電源を入れるとLANランプが点灯（もしくは点滅）します。



お知らせ

INITランプは、通常の運用中には点灯しません。 (☞ 「1-2 ADSLモデム-MS IIの各部の名称と機能」 p.2)

- 3** パソコンを起動して、LAN ランプが点灯することを確認してください。

インターネットへのアクセスを行う場合は、フレッツ接続ツールやパソコンのOSが持つPPPoE機能を使用して、プロバイダへ接続してください。 (☞ 「2 インターネットへの接続」 p.11)

ADSLモデム-MS II 自体へのアクセスを行う場合は、パソコンの設定を行った上で、Webブラウザによってアクセスしてください。 (☞ 「3 パソコンのネットワーク設定」 p.13)



お願い

LANランプは、パソコンの電源が入っていなかったり、LANケーブルが正しく接続されていなかったりすると点灯しません。 (☞ 「5-1 故障かなと思ったら」 p.39)

1 // お使いになる前に

1

2 インターネットへの接続

ADSL モデム-MS II は、ADSL 側(WAN 側)の機器と LAN 側の端末（パソコンやフレッツ・ADSL 対応ルータ）との間で、ブリッジによるデータ中継を行う装置です。

LAN 側の端末から、ADSL を使用してインターネットにアクセスするためには、WAN 側にあるプロバイダのサーバと PPP によるユーザー認証を行う必要があります。しかし、本装置は PPP によるユーザー認証を行うための機能を持っていません。そのため、本装置を使ってインターネットアクセスを行うためには、LAN 側に接続したパソコンまたはフレッツ・ADSL 対応ルータにおいて、PPP over Ethernet (PPPoE) 機能を使用してユーザー認証をする必要があります。

ADSL サービスで使用するための PPPoE 機能は、以下の方法で提供されています。

(1) パソコンで提供される場合：

- ① フレッツ接続ツールを使用する。
- ② Windows XP や Mac OS X の場合は、OS 自体がもつ”PPPoE”（「ユーザー名とパスワードが必要な広帯域接続を使用して接続する」）機能を使用する。



お知らせ

フレッツ接続ツールや、OS の持つ PPPoE 機能の使用方法については、フレッツ接続ツールのセットアップガイドや、各 OS のオンラインマニュアル等をご参照ください。

(2) フレッツ・ADSL 対応ルータで提供される場合：

- ① ルータが持つ PPPoE 接続機能を使用する。



お知らせ

ルータの PPPoE 接続機能の使用方法については、ルータの取扱説明書等をご参照ください。

3 パソコンのネットワーク設定

ADSLモデム-MSⅡとご使用のパソコンをLAN ケーブルで接続して、パソコン上の Web ブラウザを使用して、ADSLモデム-MSⅡにアクセスすることができます。ADSLモデム-MSⅡへのアクセスに必要なパソコンのハードウェア、ソフトウェアは以下のとおりです。

ハードウェア：

- Ethernet インタフェースを持ったパソコンなど。



お知らせ

Ethernet インタフェースの取り付け方法および設定方法については、パソコン本体や Ethernet カードなどに付属している取扱説明書を参照してください。

ソフトウェア：

- Web ブラウザソフトウェア

<Windows の場合>

- Microsoft Internet Explorer Ver.4.0 以上
(Ver.5.0 Service Pack 2 を除く：このバージョンではオートコンプリート機能に不具合があり、本装置の一部の機能が正しく動作しない場合があります。オートコンプリート機能を OFF にするか、Ver.5.5 以上へバージョンアップしてご使用ください。)
- Netscape Communicator Ver.4.0 以上
(Ver.6.0 以降をご使用の場合は、一部の画面が正しく表示されません。)

<Macintosh の場合>

- Microsoft Internet Explorer Ver.5.0 以上
- Netscape Communicator Ver.4.7 以上
(Ver.6.0 以降をご使用の場合は、一部の画面が正しく表示されません。)

3

3-1 TCP/IPの設定

ご使用のパソコンからADSLモデム-MSⅡにアクセスするためには、ご使用の Ethernet インタフェースに対して正しく TCP/IP プロトコルの設定を行わなければなりません。ここでは、TCP/IP の設定方法について説明します。



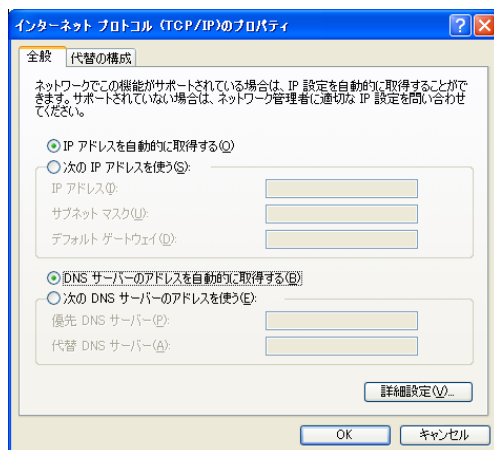
お知らせ

ADSLモデム-MSⅡは、自動的に IP アドレスを割り当てる機能 (DHCP サーバ機能) を持っています。そのため、パソコン側で IP アドレスを自動的に取得できるような設定を行っていれば、ADSLモデム-MSⅡにアクセスすることができます。

Windows XP の場合

1 TCP/IP の設定を行ってください。

- ① [スタート]→[コントロールパネル(C)]を選択してクリックしてください。
- ② [コントロールパネル]の画面が表示されますので、「作業する分野を選びます」から、[ネットワークとインターネット接続]のカテゴリを選択し、クリックしてください。
- ③ [ネットワークとインターネット接続]の画面が表示されますので、「コントロールパネルを選んで実行します」から、[ネットワーク接続]を選択してクリックしてください。
- ④ [ネットワーク接続]の画面が表示されますので、使用するネットワークアダプタ名が表示されている[ローカルエリア接続]を選択してダブルクリックしてください。
- ⑤ [ローカルエリア接続の状態]の画面が表示されますので、その中の [全般]のタブから **プロパティ(P)** をクリックしてください。
- ⑥ [ローカルエリア接続のプロパティ]のウィンドウが表示されますので、[全般]のタブの中から[インターネットプロトコル (TCP/IP)]を選択してクリックし、その後で **プロパティ(R)** をクリックしてください。
- ⑦ 以下のような画面になりますので、[全般]のタブをクリックしてください。



- ⑧ [IP アドレスを自動的に取得する (A)]と、[DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する (B)]を選択してください。

2 OK をクリックしてください。

設定が保存され、有効になります。



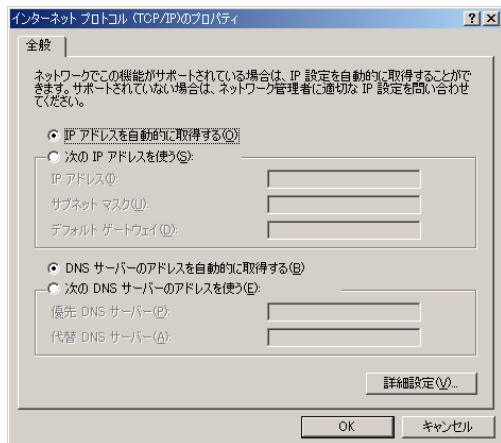
お知らせ

DHCPサーバを使用しないときは、IPアドレスを手動で入力する必要があります。この場合は「次のIPアドレスを使う(S)」を選択して、値を入力してください。

Windows 2000 の場合

1 TCP/IP の設定を行ってください。

- ① [スタート]→[設定(S)]→[コントロールパネル(C)]を選択してクリックしてください。
- ② [コントロールパネル]の画面が表示されますので、[ネットワークとダイアルアップ接続]のアイコンを選択してダブルクリックしてください。
- ③ [ネットワークとダイアルアップ接続]の画面が表示されます。マウスのポインタを近づけると使用するネットワークアダプタ名が表示される[ローカルエリア接続]のアイコンを選択してダブルクリックしてください。
- ④ [ローカルエリア接続 状態]の画面が表示されますので、その中の「プロパティ(P)」をクリックしてください。
- ⑤ [ローカルエリア接続のプロパティ]の画面が表示されますので、[全般]のタブの中から[インターネットプロトコル (TCP/IP)]を選択してクリックし、その後で「プロパティ(R)」をクリックしてください。以下の画面が表示されます。



- ⑥ [IP アドレスを自動的に取得する(O)]と、[DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する(B)]を選択してください。

- 2 OK をクリックしてください。

設定が保存され、有効になります。



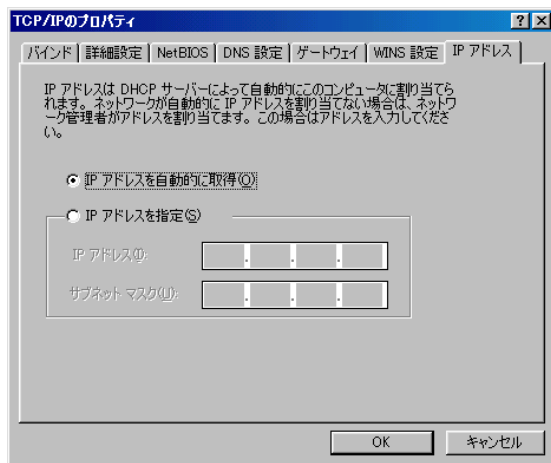
お知らせ

DHCPサーバを使用しないときは、IPアドレスを手動で入力する必要があります。この場合は「次のIPアドレスを使う(S)」を選択して、値を入力してください。

Windows ME/98/95 の場合

- 1 TCP/IP の設定を行ってください。

- ① [スタート]→[設定(S)]→[コントロールパネル(C)]を選択してクリックしてください。
- ② [コントロールパネル]の画面が表示されますので、[ネットワーク]のアイコンを選択してダブルクリックしてください。
- ③ [ネットワーク]の画面が表示されますので、[ネットワークの設定]のタブから使用するネットワークアダプタにバインドされたTCP/IPプロトコル表示をクリックし、その後で **プロパティ(R)** をクリックしてください。以下の画面が表示されます。



- ④ [IP アドレス]タブウィンドウから「IP アドレスを自動的に取得(O)」を選択してください。

「再起動」を促すメッセージがパソコン上に表示されます。再起動後に、設定内容が有効となります。



DHCPサーバを使用しないときは、IPアドレスを手動で入力する必要があります。この場合は「IPアドレスを指定(S)」を選択して、値を入力してください。

1 アップルメニューから[システム環境設定]を選択してクリックしてください。

[システム環境設定]の画面が表示されますので、「インターネットとネットワーク」から[ネットワーク]のアイコンをクリックしてください。[ネットワーク]の画面で、TCP/IPのダイアログボックスが表示されます。



- 2 [表示]、[設定]に次の内容を選択した後、ダイアログボックスを閉じてください。

- ・表示 : 内蔵 Ethernet
- ・設定 : DHCP サーバを参照



お願い

インターネットへ接続する場合は、[ネットワーク]の中の[PPPoE]のタブをクリックしてPPPoEのダイアログボックスを開き、[PPPoEを使って接続する]のチェックボックスをチェックしてください。

尚、本装置にアクセスする場合はチェックを外してください。チェックをしたままでは、PPPoEが使用されるため、本装置へアクセスすることができません。



- 3 保存の確認ダイアログボックスが表示されたら、**はい** をクリックしてください。

設定内容が保存され、有効になります。



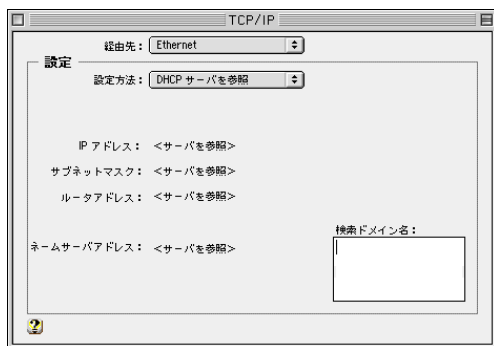
お知らせ

DHCPサーバを使用しないときは、IPアドレスを手動で入力する必要があります。この場合は[手入力]を選択して、値を入力してください。

Macintosh の場合（Mac OS 9 以前。OpenTransport を使用しているもの）

- 1 アップルメニューの[コントロールパネル]から[TCP/IP]を選択してクリックしてください。

TCP/IP ダイアログボックスが表示されます。



- 2 [経由先]、[設定方法]に次の内容を選択した後、ダイアログボックスを閉じてください。

- ・経由先 : (内蔵) Ethernet
- ・設定方法 : DHCP サーバを参照

- 3 保存の確認ダイアログボックスが表示されたら、**はい** をクリックしてください。

設定内容が保存され、有効になります。



お知らせ

DHCPサーバを使用しないときは、IPアドレスを手動で入力する必要があります。この場合は「手入力」を選択して、値を入力してください。

3-2 IP設定の確認

ここで示す手順に従って、パソコンに割り当てられた IP アドレスを確認してください。

STOP お願い

IP 設定を確認して、適切な IP アドレスが割り当てられていないときには、本装置へのアクセスができません。IP アドレス情報の更新を行ってください。

IP アドレス情報の更新を行っても正しい IP アドレスが割り当てられない場合は、次の点を確認した上でパソコンの再起動を行ってください。

- ・ LAN ケーブルが正しく接続されているか (LAN ランプは点灯しているか)
- ・ TCP/IP プロトコルは正しく設定されているか (☞ 「3-1 TCP/IP の設定」 p.13)
- ・ Ethernet カードが正しくインストールされているか

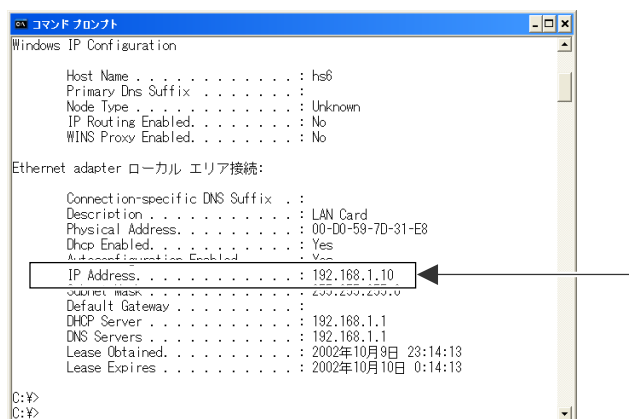
Windows XP/2000 の場合

- ① [スタート]-[すべてのプログラム(P)] (Windows 2000 の場合は[プログラム(P)])-[アクセサリ]-[コマンドプロンプト]を選択してクリックしてください。

コマンドプロンプトのダイアログボックスが表示されます。

- ② 「ipconfig /all」と入力し、Enter キーを押してください。

TCP/IP の設定内容が「IP Address」の行に表示されます。

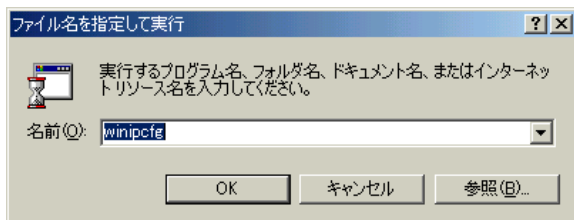


- ③ パソコンに割り当てられた IP アドレス情報が正しくなかった場合は、「ipconfig /renew」と入力し、Enter キーを押して、IP アドレスを更新してください。

Windows Me/98/95 の場合

- ① [スタート]-[ファイル名を指定して実行(R)]を選択してクリックしてください。

ファイル名を指定して実行ダイアログボックスが表示されます。



- ② 入力欄に「winipcfg」と入力し、**OK** をクリックしてください。

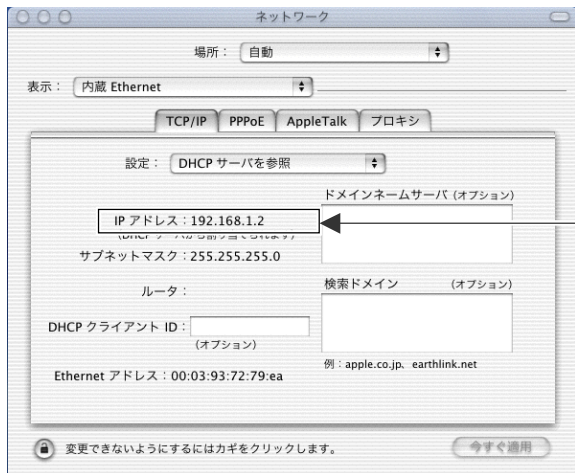
IP 設定ダイアログボックスが表示されるので、プルダウンメニューから使用する Ethernet アダプタ名を選択してください。TCP/IP の設定内容が表示されます。



- ③ パソコンに割り当てられた IP アドレス情報が正しくなかった場合は、「winipcfg」の画面から、[すべて解放(A)]→[すべて書き換え(M)]の手順で更新してください。

Macintosh (Mac OS 10 以降) の場合

- ① アップルメニューから[システム環境設定]を選択してクリックしてください。
- ② [システム環境設定]の画面が表示されますので、「インターネットとネットワーク」から[ネットワーク]のアイコンをクリックしてください。[ネットワーク]の画面で、TCP/IP のダイアログボックスが表示されます。



- ③ IP アドレス等が正しく表示されていることを確認してください。——

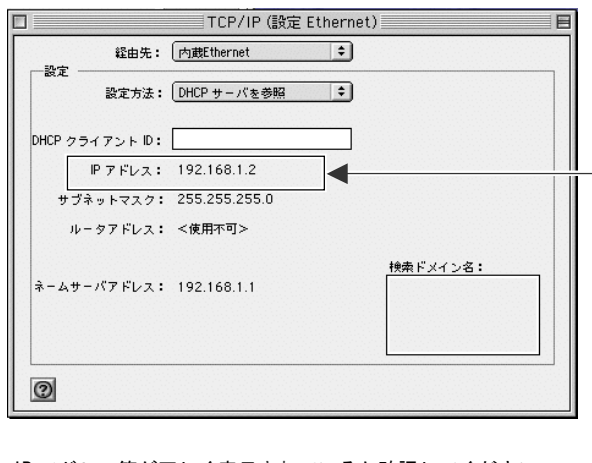


お知らせ

Mac OS の場合、コマンドを使って IP アドレス情報を更新することはできません。LAN ケーブルを抜き差しするか、パソコンの再起動を実施してください。

Macintosh (Mac OS 9 以前) の場合 :

- ① アップルメニューから[コントロールパネル]-[TCP/IP]を選択してクリックしてください。TCP/IP ダイアログボックスが表示されます。



- ② IP アドレス等が正しく表示されているか確認してください。



お知らせ

Mac OSの場合、コマンドを使ってIPアドレス情報を更新することはできません。LANケーブルを抜き差しするか、パソコンの再起動を実施してください。

4 Web設定

ADSL モデム-MS II は、パソコンの Web ブラウザを使ってアクセスし、設定の変更や、ご使用中の機器状態の確認などを行うことができます。

4-1 設定Web画面の表示

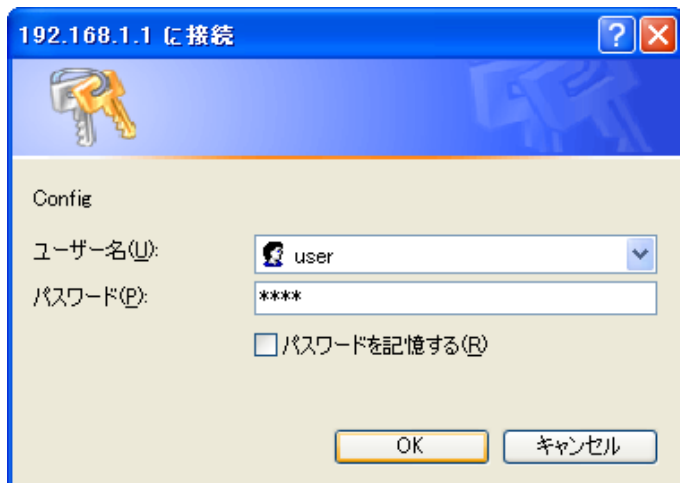
ADSL モデム-MS II に Web ブラウザを使用してアクセスし、各種の設定や、機器状態などの情報の参照を行うことができます。ここでは、ADSL モデム-MS II にアクセスするために必要な、パソコンのネットワーク設定について説明します。Web ブラウザで ADSL モデム-MS II に接続することにより、管理メニューが表示されます。

お願い

フレッツ・ADSL 対応ルータを経由して、本装置にアクセスすることはできません。ADSL モデム-MS II とパソコンを直接 LAN ケーブルで接続して、アクセスを行ってください。

- 1 Web ブラウザを起動してください。
- 2 Web ブラウザのアドレス欄に、下記のアドレスを入力し、Enter キーを押してください。

http://192.168.1.1/（このアドレスは工場出荷時の初期値です。）
ネットワークパスワードの入力ダイアログボックスが表示されます。



※この画面は Windows XP のものです。Mac OS や Windows95/98/ME/2000 では、入力が必要な項目は同じですが、画面イメージは異なります。

- 3 次のユーザー名およびパスワードを入力し、OK をクリックしてください。

・ユーザー名：user

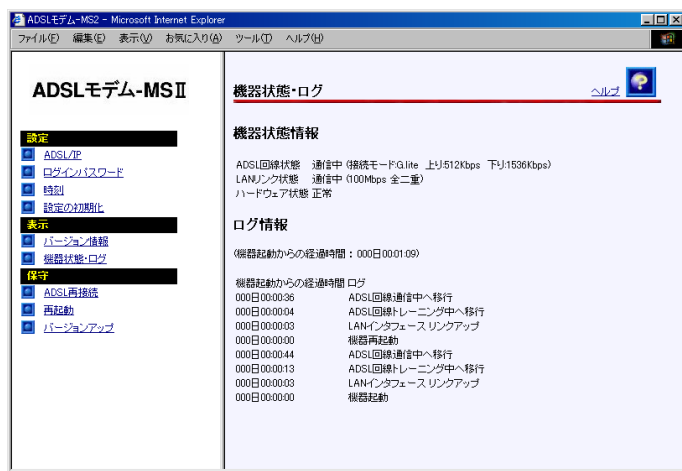
・パスワード：user

このユーザー名、パスワードは工場出荷時の初期値です。運用開始時にはセキュリティの観点から、ユーザー名とパスワードは、変更することをお勧めします。変更方法についての詳細は「4-3 ログインパスワードの変更」(p. 30) を参照してください。

IP アドレスやログインパスワードを忘れた場合は、「5-2 初期化方法」(p. 42) を参照し、初期化設定に戻してご使用ください。

- 4 ADSL モデム-MS II 管理メニューが表示されます。

管理メニューは、メニューフレームと操作フレームに分かれています。メニューフレームから、「設定」「表示」「保守」の各メニューを選択すると、操作フレームに設定ページや関連情報が表示されます。



メニューフレーム

操作フレーム



お知らせ

操作フレーム右上にある  マークをクリックすると、各ページのヘルプが表示されます。

4-2 ADSL/IP設定

本装置で使用する ADSL や IP に関する設定を行います。通常のご使用において本画面による設定変更は必要ありません。ネットワーク構成によっては設定の変更が必要となりますが、その場合は、以下の手順に従って正しい内容で設定してください。

1 メニューフレームの ADSL/IP をクリックしてください。

操作フレームに ADSL/IP 設定画面が表示されます。

ADSL/IP設定

ADSL接続モード

自装置IPアドレス/マスク長 /

IPアドレスの自動割り当て(本装置へのアクセス用)

☒ 行う ☐ 行わない

開始アドレス

割り当てIPアドレス個数 (1-256)

IPパケット

2 以下の項目について設定を行ってください。

①ADSL 接続モード

ADSL の接続モードを、「自動選択」「G.lite 固定」から選択できます。

「G.lite 固定」を選択した場合は、局側装置の設定にかかわらず G.lite モード（最大 1.5Mbps）で接続します。

工場出荷時の初期値は、「自動選択」が設定されています。

②自装置 IP アドレス/マスク長

本装置にアクセスするための IP アドレスとサブネットマスク長を指定してください。

工場出荷時の初期値は、192.168.1.1/24 が設定されています。



お知らせ

本欄を空欄とした場合や「0.0.0.0/0」を設定した場合は、本装置に対して Web によるアクセスができなくなります。このとき、IP アドレスの自動割り当て（DHCP サーバ）機能も使用できなくなります。

③ IP アドレスの自動割り当て（本装置へのアクセス用）

DHCP サーバ機能を使用して、LAN 側のパソコンに IP アドレスの自動割り当てを行うことができます。

IP アドレスの自動割り当てを行う場合は、「行う」を選択してください。工場出荷時の初期値は、「行う」が設定されています。



お願い

LAN側のネットワークに他のDHCPサーバが存在する場合は、「行わない」を選択するなどの調整を行ってください。正しいIPアドレスが割り当てられず、本装置へのアクセスができない場合があります。

1 開始アドレス

LAN 側のパソコンに割り当てる最初の IP アドレスを指定してください。工場出荷時の初期値は、「192.168.1.2」が設定されています。



お知らせ

自装置IPアドレスと、同じサブネットに属するIPアドレスを設定してください。

2 割り当て IP アドレス個数

開始アドレスより、何個分の IP アドレスを LAN 側のパソコンのために確保するかを指定してください。

工場出荷時の初期値は、「16」が設定されています。



お知らせ

開始アドレスが「192.168.1.2」で、割り当てIPアドレス個数が「16」の場合（初期化設定の場合）、LAN側で利用できるIPアドレスは以下のように確保されます。

192.168.1.2

192.168.1.3

:

192.168.1.17

④ IP パケット

ご使用のサービス内容によっては、PPPoE 機能を使用せず、IP パケットでパソコンがインターネットサービスプロバイダ等とデータのやり取りを行う場合があります。

このようなサービスをご使用の場合は、「通す」を選択してください。

工場出荷時の初期値は、「通さない」が設定されています。



お知らせ

インターネットサービスプロバイダ等から特に指定がない限り、「通さない」の設定のままご使用ください。「通さない」の設定の場合も、PPPoE機能は使用可能です。

3 設定 をクリックしてください。



お願い

設定内容をフラッシュメモリに書き込みます。書き込み中（Web画面表示が切り替わるまで）は、機器の電源を落とさないようにしてください。フラッシュメモリへの書き込み中に電源を落とすと、機器が動作しなくなります。

4 機器の再起動を行ってください。

「4-8 再起動」 ( p. 37) を参照してください。



お知らせ

自装置IPアドレスを忘れた場合や、自装置IPアドレスを空欄にしたり、「0.0.0.0/0」を設定したりして本装置にアクセスできなくなった場合は、初期化設定で起動することができます。「5-2 初期化方法」 ( p.42) を参照してください。

4-3 ログインパスワードの変更

ADSLモデム-MS IIにログインするためのログインユーザー名、パスワードを変更します。本装置に対する不正なアクセスを防止するため、ユーザー名、パスワードをご変更されておくことをお勧めします。

- 1 メニューフレームの ログインパスワード をクリックしてください。

操作フレームにログインパスワード設定画面が表示されます。

- 2 ユーザー名 をクリックしてください。

パスワード変更画面が表示されます。

- 3 ユーザー名 欄にログインユーザー名、パスワード および パスワードの確認入力 欄にパスワードを入力してください。



お知らせ

32文字以内の半角英数文字および記号が使用できます。ただし、<>,'",&,%,"は使用できません。大文字と小文字は区別されます。



お知らせ

パスワードおよび、パスワードの確認入力欄の入力文字は、すべて“*”に置き換わって表示されます。

**お知らせ**

パスワードの確認入力欄で異なるパスワードを入力した場合は、エラー画面が表示されます。パスワード、パスワードの確認入力欄の入力操作をやり直してください。

4**設定** をクリックしてください。**お願い**

設定内容をフラッシュメモリに書き込みます。書き込み中は、前面のADSL、INIT、LAN、および、ALARMの各ランプが点滅します。ランプの点滅が終わるまでは、機器の電源を落とさないようにしてください。フラッシュメモリへの書き込み中に電源を落とすと、機器が動作しなくなります。

4**お知らせ**

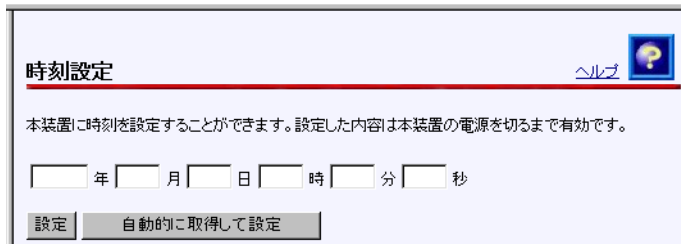
設定したログインユーザー名やパスワードを忘れて、ADSLモデムMS IIにアクセスできなくなった場合は、初期化設定で起動することができます。「5-2 初期化方法」(👉 p.42)を参照してください。

4-4 時刻設定

本装置の時刻を設定します。

- 1 メニューフレームの **時刻** をクリックしてください。

操作フレームに時刻設定画面が表示されます。



時刻設定

ヘルプ ?

本装置に時刻を設定することができます。設定した内容は本装置の電源を切るまで有効です。

年 月 日 時 分 秒

- 2 本装置の時刻を設定して、**設定** をクリックしてください。現在接続中のパソコンの時計から時刻を取得して設定する場合は、**自動的に取得して設定** をクリックしてください。



お知らせ

局側の設備によっては、ADSLのリンクアップ時に自動的に時刻設定されます。その場合は、手動による時刻設定を行う必要はありません。（最後に設定された時刻が有効になります。）



お知らせ

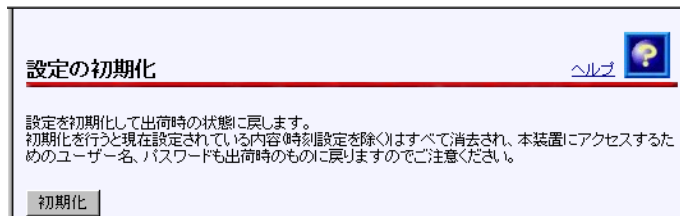
設定された時刻は本装置の電源を落とすまで有効です。電源を落とさずに再起動する場合は、設定内容は保存されます。

4-5 設定の初期化

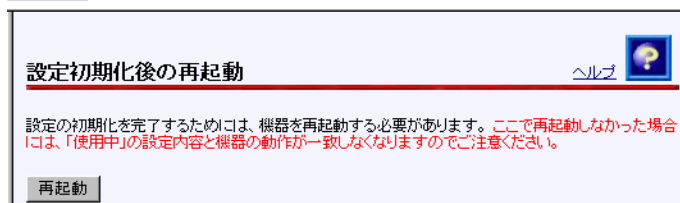
本装置の設定を初期化します。

- 1 メニューフレームの **設定の初期化** をクリックしてください。

操作フレームに設定の初期化画面が表示されます。



- 2 **初期化** をクリックしてください。



お願い

設定内容をフラッシュメモリに書き込みます。書き込み中は、前面のADSL、INIT、LAN、および、ALARMの各ランプが点滅します。ランプの点滅が終わるまでは、機器の電源を落とさないようにしてください。フラッシュメモリへの書き込み中に電源を落とすと、機器が動作しなくなります。

- 3 **再起動** をクリックしてください。

本装置が再起動し、初期化が完了します。設定の初期値は、初期化設定一覧 (☞ 「5-2-2 初期化設定内容一覧」 p.44) を参照してください。



お知らせ

初期化および再起動を行っても、一旦設定された時刻設定は初期化されません。

4-6

また、ログ内容により機器状態の変化を知ることができます。

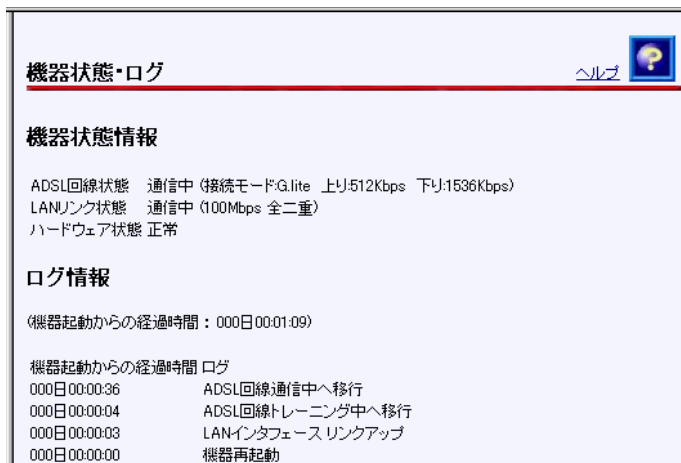
ADSL 回線状態が「通信中」になったときは、ADSL 接続時の接続モードとリンク速度も表示されます。



ADSL 回線状態で表示されるリンク速度は、実際のスループットとは異なります。

1 メニューフレームから、機器状態・ログ をクリックしてください。

操作フレームに機器状態・ログ画面が表示されます。



機器状態情報では、以下の情報が参照できます。

- ADSL 回線狀態

現在使用中の ADSL 回線の状態が表示されます。

「通信中」……………局側装置との接続が確立している。

ADSL の接続モード (G.dmt/G.lite) およびリンク速度 (上り/下り) も表示される。

「トレーニング中」・・局側装置と接続を確立するためのトレーニング
を実行中。

「接続待ち」……………局側装置の応答待ち。

「アイドル」……………停止している。

- LAN リンク状態

現在の Ethernet LAN インタフェースのリンク状態が表示されます。

「通信中」 接続が確立している。

現在の動作モード（10Mbps/100Mbps、全二重/半二重）も合わせて表示される。

「停止中」 停止している。

「異常」 何らかの異常が発生し、停止している。

- ハードウェア状態

本装置のハードウェア状態が表示されます。

「正常」 ハードウェアに問題がない。

「異常」 何らかの異常が検知されている。

ログ情報には、起動直後からメモリ上に蓄積されているログの内容が、最新のものから順に表示されます。



お知らせ

局側装置によっては、機器起動時点を0時とする相対時刻で表示されている場合があります。この場合は、「4-4 時刻設定」(👉 p.32)を実施してください。



お知らせ

時刻設定が行われるまでに再起動を繰り返した場合、1970年を起点とした日時でログが残ることがありますが、異常ではありません。



お知らせ

最大200件までのログが蓄積されます。

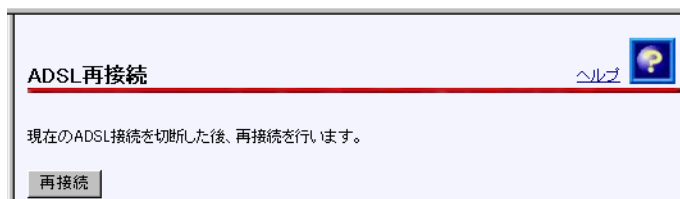
200件を越えると、古いものから順に削除されます。

4-7 ADSL再接続

ADSLモデム-MS IIでは、Web ブラウザの操作画面から、ADSL リンクの接続を一旦切断し、再接続することができます。ADSL 回線のリンク速度が一時的なノイズの発生などによって低下した場合に、ADSL リンクの再接続を行うことにより、リンク速度が回復することがあります。

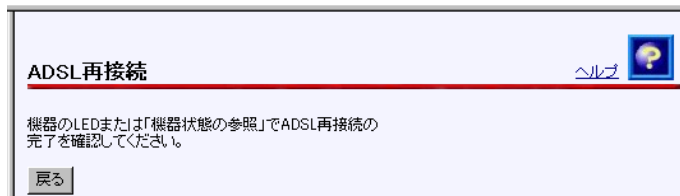
- 1 メニューフレームから、**ADSL 再接続** をクリックしてください。

操作フレームに ADSL 再接続ページが表示されます。



- 2 **再接続** をクリックしてください。

ADSL 再接続中のページが表示され、ADSL 回線の再接続が行われます。



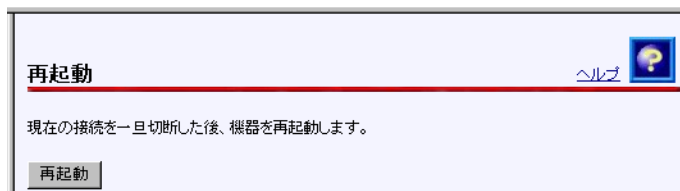
- 3 ADSL 回線の再接続完了を ADSL ランプで確認してください。

4-8 再起動

ADSLモデム-MS IIでは、Web ブラウザから機器の再起動を行うことができます。

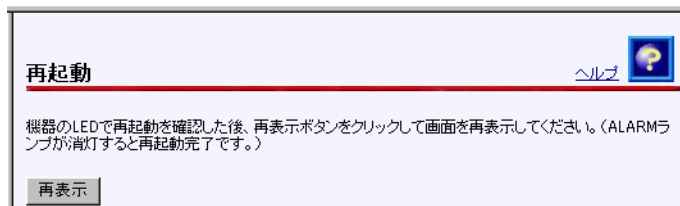
- 1 メニューフレームから、**再起動** をクリックしてください。

操作フレームに再起動画面が表示されます。



- 2 **再起動** をクリックしてください。

機器の再起動中の画面が表示され、ADSLモデム-MS IIが再起動します。



お知らせ

再起動を行っても、一旦設定された時刻設定は初期化されません。

- 3 前面のランプで再起動を確認してください。(👉 「1-6 ADSLモデム-MS II とパソコンの電源を ON にする」 p. 8)



お知らせ

再起動中には、Webブラウザでの接続はできません。

5-1 故障かなと思ったら

トラブルが発生した場合には、障害個所を明確にしてから本章をお読みください。障害個所の特定には、次のような手段があります。

- ・ 前面パネルにあるランプの点灯状況を確認する
- ・ ADSL モデム—MS II への Ping が実行できることを確認する
- ・ プロバイダから割り当てられるデフォルトゲートウェイアドレスや、DNS サーバアドレスへの Ping が実行できることを確認する
- ・ 著名な Web サイトへのアクセスが可能であることを確認する

現象：PWR ランプが点灯しない

原因：本装置に電源が供給されていません。

対処：電源アダプタが本装置に接続されていることを確認してください。

対処：電源アダプタがコンセントに確実に接続されていることを確認してください。

対処：コンセントに電源が来ている（通電している）ことを確認してください。

対処：本装置用の電源アダプタであることを確認してください。

現象：ALARM ランプが点滅する

原因：機器の故障が考えられます。

対処：お問い合わせになった販売店、またはサービス取扱所にご相談ください。なお、電源投入時には ALARM ランプが一時的に点灯します。

現象：ADSL ランプが点灯しない

原因：電話局側の ADSL 信号が検出できません。

対処：電話回線が確実に接続されていることを確認してください。

対処：ADSL サービスをご契約された電話回線に接続されていることを確認してください。

対処：スプリッタを使用している場合は、正しく接続されていることを確認してください。

現象：ADSL ランプが点滅を繰り返す

原因：ADSL リンクの確立（トレーニング）を行っています。（1 秒周期で点滅）

対処：電話回線が確実に接続されていることを確認してください。

対処：スプリッタを使用している場合は、正しく接続されていることを確認してください。

原因：電話線コードにノイズが加わりやすくなっています。

対処：電話線コードに、他の電線がからまないようにしてください。

現象：ADSL ランプが不定期に点滅を繰り返す

原因：ADSL 側で通信が発生した場合は一瞬消灯します。

対処：トラブルではありません。

現象：LAN ランプが点灯しない

対処：背面の LAN ポートは、添付の LAN ケーブル（ストレート）でパソコンと直接接続できる仕様になっています。Ethernet HUB などと接続する場合は、Ethernet HUB のアップリンクポートに接続するか、または別売りのクロスケーブルで接続してください。

対処：LAN ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。

対処：パソコンや Ethernet HUB 側のインタフェース設定を、10Mbps 半 2 重固定モードにしてください。

現象：LAN ランプが不定期に点滅を繰り返す

原因：LAN 側で通信が発生した場合は一瞬消灯します。

対処：トラブルではありません。

現象：設定内容や状態を見たい

対処：Web ブラウザを参照してください。（ 「4 Web 設定」 p. 25）

現象：ログインパスワードを忘れた

対処：本装置の初期化時のユーザー名は「user」、パスワードは「user」です。「5-2 初期化方法」（ p. 42）を参照して初期化設定でログインし、もう一度、ログインユーザー名、パスワードの設定を行ってください。

現象：自装置 IP アドレスを忘れた

対処：本装置の初期化時の自装置 IP アドレスは、「192.168.1.1/24」です。「5-2 初期化方法」（ p. 42）を参照して初期化設定でログインし、もう一度、自装置 IP アドレスの設定を行ってください。

現象：Web ブラウザで ADSL モデム-MS II にアクセスできない

対処：正面の LAN ランプが点灯していることを確認してください。

原因：パソコンに適切な IP アドレスが割り当てられていません。

対処：パソコンの IP アドレスを確認し、適切でなければ IP アドレス情報を更新してください。（ 「3-2 IP 設定の確認」 p. 20）

対処：本装置の他に DHCP サーバが存在する場合は、本装置もしくは該当装置の DHCP サーバ機能を停止してください。

原因：本装置に自装置 IP アドレスが設定されていません。（自装置 IP アドレスの欄が空欄になっている、または、「0.0.0.0/0」が設定されている。）

対処：「5-2 初期化方法」（ p. 42）を参照して初期化設定でログインし、もう一度、自装置 IP アドレスの設定を行ってください。

原因：フレッツ・ADSL対応ルータを経由して接続しています。

対処：本装置とパソコンを直接 LAN ケーブルで接続して、アクセスを行ってください。

原因：ADSLモデム-MSⅡが起動中（セルフテスト中）です。

対処：モデムの起動を確認してから、再度アクセスしてください。

対処：お使いの Web ブラウザがプロキシを使用しない設定になっていることを確認してください。

対処：お使いの Web ブラウザが JavaScript を使用しない設定になっていることを確認してください。

対処：本装置を再起動してください。

対処：パソコンを再起動してください。

現象：インターネットにアクセスできない

対処：正面の LAN ランプが点灯していることを確認してください。

対処：正面の ADSL ランプが点灯していることを確認してください。

対処：「機器状態・ログ」画面で、ADSL 回線状態が「通信中」となっていることを確認してください。

対処：パソコンで、フレッツ接続ツールなどの PPPoE によるインターネットへの接続操作が実行されていることを確認してください。

対処：フレッツ・ADSL対応ルータをご使用の場合は、ルータの設定が正しく行われていることを確認してください。

対処：「故障かなと思ったら」の他の項目に該当する現象が起きていないか確認し、対処を行ってください。

対処：10 分間くらい待って、PPPoE の再接続を行ってください。

対処：パソコンを再起動してください。

現象：インターネットへのアクセスが遅くなった

原因：接続先のサーバが混んでいる可能性があります。

原因：接続先のプロバイダやインターネット上の経路が、他の通信で混んでいる可能性があります。

原因：ADSL 回線がノイズの発生などの外乱を受け、リンク速度が低下している可能性があります。

対処：Web ブラウザメニューにある「ADSL 再接続」を適宜実行してみてください。

現象：電話からのノイズが著しくなった

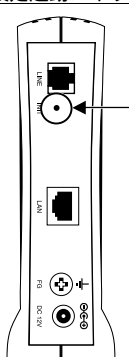
対処：本装置、スプリッタ、および電話機が正しく接続されていることを確認してください。

5-2 初期化方法

5-2-1 初期化設定での起動方法

ADSL モデム-MS II に設定した内容(自装置 IP アドレスや、ユーザー名、パスワード)を忘れてしまい、ADSL モデム-MS II へのアクセスができなくなった場合は、初期化設定で起動することにより、ADSL モデム-MS II にアクセスできるようになります。自装置 IP アドレスを設定しない運用中に設定を変更する必要がある場合も、本手順をご使用ください。

- 1 本体背面にある初期化設定起動スイッチ (INIT) を 3 秒間押してください。



本装置は、一時的に初期化設定で再起動します。この間、前面の INIT ランプが緑と橙の点滅を繰り返します。



お知らせ

INIT ランプを見る角度によっては、緑と赤の点滅に見えることもありますが、異常ではありません。



お願い

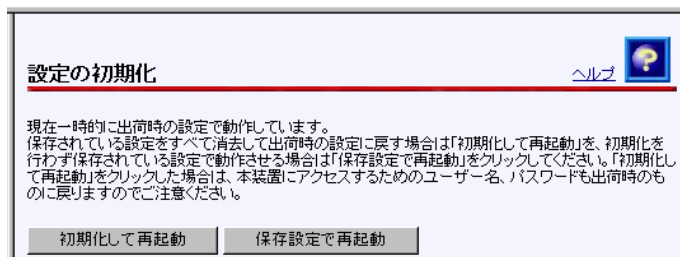
再起動が完了した後も INIT スイッチを押し続けると、本装置は、再起動を繰り返します。

- 2 初期化設定を使用して、パソコンから本装置へアクセスしてください。 (p. 25)

初期化設定の値：

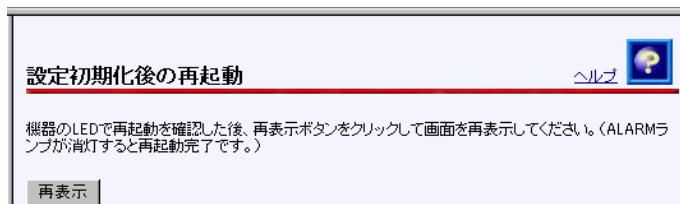
ユーザー名 : user
パスワード : user
IP アドレス : 192.168.1.1

3 LAN ポートに接続したパソコンから、Web でアクセスしてください。



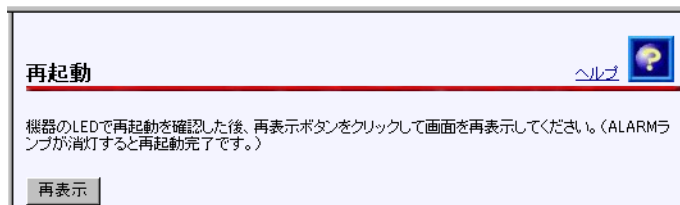
4 初期化して再起動 または 保存設定で再起動 をクリックし、再起動を行ってください。

設定内容を初期化時に戻してご使用される場合は、初期化して再起動 を選択してください。



設定内容を初期化して再起動します。(時刻設定の内容は初期化されません。)再起動が完了してから 再表示 をクリックすると、ADSL モデム-MS II 画面が表示されます。

なお、以前の設定のまま引き続きご使用される場合は、保存設定で再起動 を選択してください。



初期化設定を行う前の設定内容で再起動します。再起動が完了してから 再表示 をクリックすると、ADSL モデム-MS II 画面が表示されます。

5-2-2 初期化設定内容一覧

ADSLモデムMSⅡの初期化設定は、以下の通りです。設定の初期化操作（ p.33）を行ったり、INIT スイッチを押して初期化状態で起動（ p.42）し、初期化して再起動を選択すると、それまで使用していた設定は消去され、以下の設定で起動するのでご注意ください。（各項目の詳細は、参照している本文をご参照ください。）

項 目	設定内容
ADSL/IP（4-2 ADSL/IP設定（  p. 27）を参照のこと）	
ADSL接続モード	自動選択
自装置IPアドレス／マスク長	192.168.1.1/24
IPアドレスの自動割当（本装置へのアクセス用）	行う
開始アドレス	192.168.1.2
割り当てIPアドレス個数	16
IPパケット	通さない
ログインパスワード（4-3 ログインパスワードの変更（  p. 30）を参照のこと）	
ユーザー名	user
パスワード	user



お知らせ

時刻設定の内容は、電源を落とさない限りは初期化されません。

5-3 バージョンアップ

ADS L モデム-MS II は、ファームウェアをバージョンアップすることにより、機能強化を図ることができます。

- 1 提供されたファームウェアファイルをパソコン上の適当なディレクトリ（フォルダ）に置いてください。



お知らせ

ファームウェアファイルのディレクトリ（フォルダ）名には半角英数記号文字を使用し、全角文字および半角カナを使用しないでください。ファームウェアのバージョンアップができないことがあります。

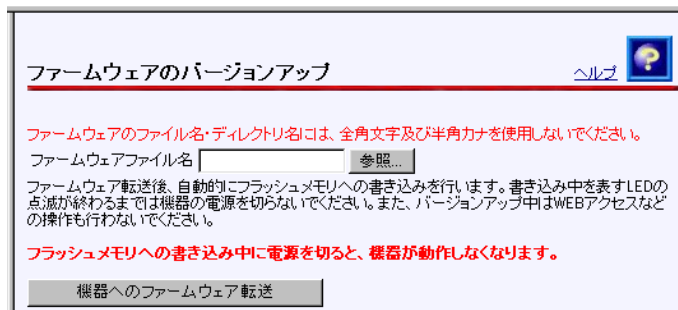


お知らせ

ディレクトリ（フォルダ）名には、<>,'",?,&,%=\は使用できません。

- 2 メニューフレームから、バージョンアップ をクリックしてください。

操作フレームにファームウェアのバージョンアップ画面が表示されます。



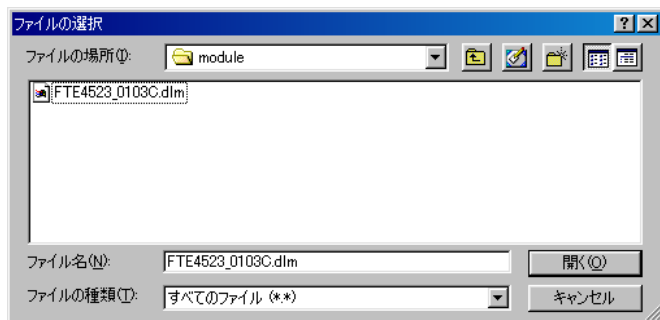
- 3 ファームウェアファイル名を指定してください。

- ① 参照… をクリックしてください。

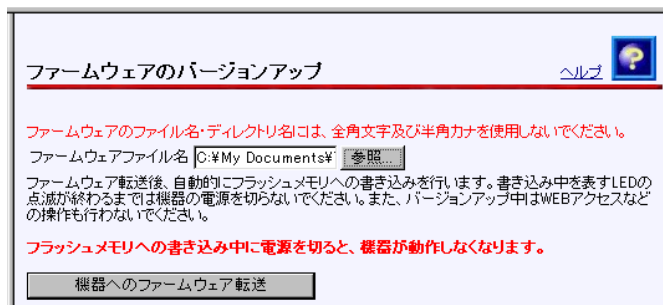
ファイル選択ダイアログが表示されます。

- ② 「ファイルの種類(1)」欄に「すべてのファイル(*.*)」を指定し、ファームウェアファイルを置いたディレクトリ（フォルダ）に移動してください。

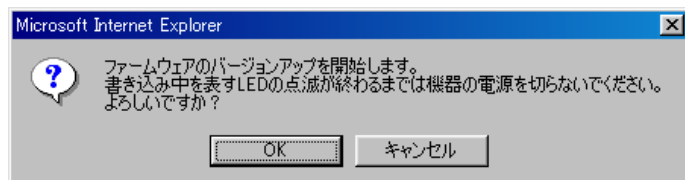
- ③ ファームウェアファイルを選択し、開く (O) をクリックしてください。



ファームウェアファイル名欄にファイル名が表示されます。

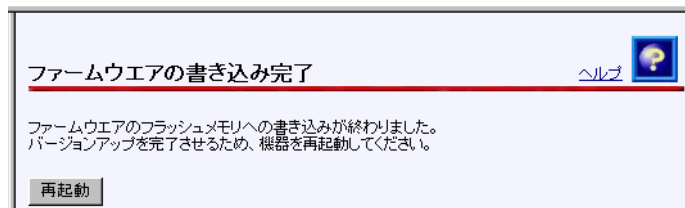


- 4 機器へのファームウェア転送 をクリックしてください。



継続する場合は、OK をクリックしてください。

機器へのファームウェア転送が行われ、機器のファームウェア転送完了画面が表示されます。





お願い

書き込み中を表すランプの点滅が終わるまでは、機器の電源を切らないでください。フラッシュメモリへの書き込み中に電源を切ると、機器が動作しなくなります。

5 **再起動** をクリックしてください。

新しいファームウェアでADSLモデム-MSⅡが起動します。

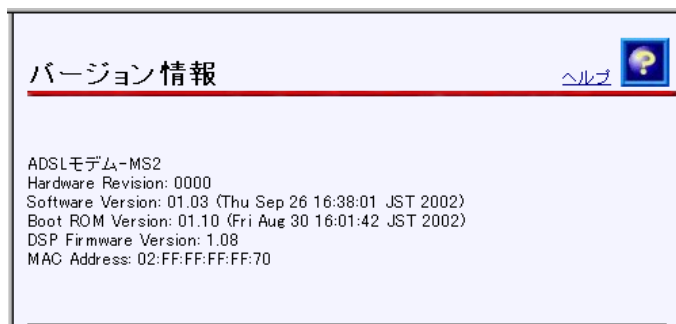


お知らせ

ADSLモデム-MSⅡには、補助記憶装置としてフラッシュメモリを内蔵しています。各種設定内容（時刻設定を除く）やファームウェアは、フラッシュメモリに書き込むことで電源供給が途切れても内容が保持されます。

6 機器の再起動が完了したら、メニューフレームから バージョン情報 をクリックしてください。

操作フレームにバージョン情報画面が表示されます。



5-4 用語集

A～Z

ADSL (Asymmetric Digital Subscriber Line)

電話局から各家庭や事業所まで引かれている、銅線の加入者電話回線 (Subscriber Line) を利用して、数 Mbps の高速データ通信を可能にする通信方式。

ADSL リンク

ADSL による電話局から各家庭や事業所に置かれたモデムまでの間の通信経路。

AnnexC (G.992.1 G.992.2 AnnexC)

G.992.1 (G.dmt) G.992.2 (G.lite) の日本仕様 (北米仕様: AnnexA、欧州仕様: AnnexB)。G.992.1 や G.992.2 を国内で使用すると、ISDN からのノイズによりリンク速度や伝送距離の低下が起こることがあるため、それらの問題を解決するための追加仕様。

ISDN からのノイズを考慮して、ISDN のビンボン伝送の周期に同期してリンク速度を変化させる技術。

DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol)

通信機器に対して、IP アドレスやサブネットマスク等のネットワーク設定を自動的に割り当てるための機能。

DHCP サーバ

DHCP 機能を持つサーバ。

DNS (Domain Name System)

インターネット上で、各コンピュータ端末が持つホスト名から、その端末の IP アドレスを検索するためのシステム。

DNS サーバ (ドメインネームサーバ、ネームサーバ)

DNS 機能を持つサーバ。

Ethernet (イーサネット)

米国 XELOX 社によって開発された LAN の通信方式。IEEE802.3 で規定された CSMA/CD 方式と同等な通信手段。使用するケーブルやリンク速度によって「10BASE-T」「100BASE-TX」という呼び方もある。常時双方向の通信が可能な「全二重」と、送信と受信を交互に切り替える「半二重」がある。

G.992.1 規格 (G.dmt)

ITU-T で決められた公衆電話網用の ADSL 規格。最大リンク速度は、上り 640kbps、下り 6144kbps と決められていたが、仕様の拡張により、それ以上のリンク速度で ADSL 回線を使用することができる。

G.992.2 規格 (G.lite)

ITU-T で決められた公衆電話網用の ADSL 規格。最大リンク速度は、上り 512kbps、下り 1536kbps。

G.dmt

G.992.1 規格の策定前の名称。G.992.1 の通称としても使用され、フルレートとも呼ばれる。

G.lite

G.992.2 規格の策定前の名称。G.992.2 の通称としても使用され、ライトとも呼ばれる。

HUB (Ethernet HUB)

LAN ケーブルを集配するネットワーク接続機器で、複数の端末を同時に接続する場合に使用する。

ITU-T (International Telecommunication Union Telecommunication standardization sector)

ITU (国際電気通信連合) の電気通信標準化部門。通信関連の標準化を定める国際機関。ITU-T が作成する標準化勧告を ITU-T 勧告と呼ぶ。

LAN (Local Area Network)

会社、組織、学校、工場、ビル、フロア等、ある限定された範囲に敷設されたコンピュータ通信のためのネットワーク。

距離、伝送路、トポロジ、プロトコルの明確な定義はないが、一般的には伝送距離が数 m～数十 km、リンク速度は 1M～数 Gbps 程度である。

ケーブルや無線等の伝送媒体を複数のコンピュータで共用し、互いに独立した通信を実行できる。

MAC アドレス

Ethernet や無線 LAN などのネットワークアダプタに割り当てられた唯一無二のユニークなアドレス。物理アドレス、イーサネットアドレスなどと呼ばれることもある。

Ping

TCP/IP ネットワークにおいて、IP パケットが通信先まで届いているかを調べるために利用される最も基本的なコマンド。

Ping を実行してみて返答が返ってくれば、途中の経路には問題がなく、相手のノードは存在し IP パケットの処理が可能であることがわかる。

PPP (Point to Point Protocol)

シリアルラインを使って通信するためのデータリンク層プロトコル。

リンク状態 (使用しているモデムや回線の状態) に応じた再接続、両端で使用する IP アドレスの自動的なネゴシエーション、認証機能などを持つ。

PPPoE (PPP over Ethernet)

Ethernet 上で PPP のパケットを使用して、Ethernet に接続したパソコンなどから直接 PPP 接続を行うためのプロトコル。

WAN (Wide Area Network)

建物や敷地を越える遠隔地の間を接続するためのネットワーク。広域網とも呼ばれる。LAN の対比語として用いられることが多い。

本装置では ADSL より上位の部分を指す。

ア～オ

インターネット

世界中に張り巡らされたコンピュータ通信のための通信網。

インターネットサービスプロバイダ

ADSL などの回線を通じてインターネットに接続するサービスを提供する業者のこと。プロバイダや ISP ということもある。

イーサネット

→ Ethernet

オートネゴシエーション

Ethernet の 10Mbps/100Mbps のリンク速度と、全二重/半二重の設定を自動的に選択する機能。

カ～コ

グローバル IP アドレス (Global IP Address)

グローバルアドレスとも呼ばれる。

NIC (Network Information Center) などの公的機関が割り当てる、インターネット接続時に必ず必要となる IP アドレスの別名である。閉じたネットワーク内部に限り自由に利用できるプライベートアドレスが登場したため、反意語としてグローバルアドレスと呼ばれるようになった。

ゲートウェイアドレス (ルータアドレス)

ネットワークにおいて、同一 LAN 上に存在しないノードや、(物理的、論理的を問わず) 別のネットワークに対するデータ通信を行う場合、ゲートウェイと呼ばれるノード (通常はルータ) ヘデータを転送する。

しかしどのゲートウェイへ送ってよいか分からない場合は、デフォルトゲートウェイという一番代表的なノードへ送ることになる。

通常、各ノードにデフォルトゲートウェイだけを設定しておけば、あとはそのデフォルトゲートウェイが適宜ルーティングを行ってくれる。

サ～ソ

サブネットマスク (Subnet Mask)

IP アドレスからサブネットのネットワークアドレスを求める場合に使用するマスク値のこと。

IP アドレスとサブネットマスクの AND をとった結果が、サブネットアドレスになる。

サブネットマスクは、通常は上位の側から連続してビットを立てた値を用い、例えば 255.255.255.0 などとして、これをサブネットマスク長が 24 であると表現する。

スプリッタ

ADSL のデータ信号が電話機や電話交換機に流れ込んだり、電話の音声信号が ADSL モデムに流れ込むことで発生する通信障害を防ぐ。一般にスプリッタはユーザー宅と通信事業者の収容局の両方に設置する。

スループット

パソコンとインターネット内のサーバとの間で、一定時間内に中継されるデータ量。

タ～ト

トレーニング (ADSL リンクのトレーニング)

ADSL で使用するデータ信号をモデムと局側装置の間で交換して、ユーザーの環境に応じたリンク速度を決定するためのプロセス。

ナ～ノ

ハ～ホ

ファームウェア

製品出荷時から機器に搭載されているソフトウェア。ADSL モデム-MS II ではフラッシュメモリに搭載されており、バージョンアップ時などにはユーザー側で書き換えることができる。

プライベート IP アドレス (Private IP Address)

RFC1597 で規定されており、プライベートアドレスとも呼ばれる。組織内部だけに閉じた環境では、その組織だけで通用する IP アドレスを利用し、インターネットにアクセスする場合だけ本来のユニークなアドレス (グローバルアドレス) を割り当てる方法が一般化している。

10.0.0.0～10.255.255.255、172.16.0.0～172.31.255.255、192.168.0.0～192.168.255.255 がプライベートアドレスとして規定されている。

フラッシュメモリ

電源を切っても内容を保持しておけるメモリチップ。ただし、一定のブロック単位 (0.5KB～256KB) でなければ書き換えはできない。

ブリッジ

データ中継装置の 1 つで、TCP/IP などのプロトコルに依存しないデータ中継を行う装置。通信端末の MAC アドレスを学習し、不要なトラフィックを自動的に廃棄する。

プロトコル

データ伝送のための規則。

マ～モ

マスク長

→ サブネットマスク

ラ～ロ

リンクアップ

リンクとは 2 つのノード間をつなぐ部分を指す。2 つのノード間が通信可能な状態になることをリンクアップという。

リンク速度

一般にリンク速度とは、通信可能な 2 つのノード間にデータが流れる速度を示す。

ADSL のリンク速度は、モデムと局側装置の間でのトレーニング・プロセスによって決められる (上り、下りのリンク速度は非対称に決められる) が、モデムと局側装置の距離や、その間の電話回線に加わる外来ノイズの影響により上下する。

ルータ

データ中継装置の 1 つで、プロトコルに依存して、ネットワークアドレスに基づいてデータ中継を行う装置。

プロトコル毎に決められているある手順に従ってネットワークの経路を学習し、最適な経路を使った中継を行うことができる。

ルータアドレス

→ ゲートウェイアドレス

5-5 仕様一覧

ADSLモデム-MS II

項 目	仕 様
LANインタフェース	
ポート数	1ポート
準拠規格	IEEE802.3、IEEE802.3u
MDI/MDI-X	MDI-X パソコンとストレートケーブルにて直接接続できる設定（クロス設定）
全二重/半二重	全二重、半二重
物理インタフェース	RJ-45コネクタ
ADSLインタフェース	
ポート数	1ポート
準拠規格	ITU-T G.992.1 Annex C ITU-T G.992.2 Annex C
物理インタフェース	RJ-11コネクタ
電 源	外付けAC電源アダプタ方式
外形寸法	154mm (H) × 120mm (D) × 49mm (W)（本体）
質 量	270g以下
消費電力	15W以下
動作温度	5 ～ 40 °C
動作湿度	5 ～ 85 %（結露なきこと）
電磁妨害	VCCI Class B適合

本装置の OS には米国 Wind River Systems, Inc. の VxWorks を採用しています。

電源アダプタ

項 目	仕 様
外形寸法	56 mm (W) × 74 mm (D) × 48 mm (H)
質 量	500g以下
電 源	AC100V±10% (50/60 Hz)
出力電圧	DC12V

ADSLスプリッタ

項 目	仕 様
收容回線	1回線
外形寸法	43 mm (W) × 58 mm (D) × 24 mm (H)（突起部は除く）
質 量	約50g
使用条件	温度 5 ～ 40°C
	湿度 5 ～ 85%（結露なきこと）

スプリッタセットに添付されています。

5-6 保守サービスのご案内

- 保証について
保証期間（1年間）中の故障につきましては「保証書」の記載に基づき当社が無償で修理いたしますので「保証書」は大切に保管してください。
（詳しくは「保証書」の無償修理規定をご覧ください。）
- 保守サービスについて
保証期間後においても、引き続き安心してご利用いただける「定額保守サービス」と、故障修理のつど料金を頂く「実費保守サービス」があります。
当社では安心して商品をご利用いただける定額保守サービスをお勧めしています。

保守サービスの種類は

定額保守サービス	● 毎月一定の料金をお支払いいただき、故障時には当社が無料で修理を行うサービスです。
実費保守サービス	● 修理に要した費用を頂きます。 （修理費として、お客様宅へおうかがいするための費用および修理に要する技術的費用・部品代を頂きます。） （故障内容によっては高額になる場合もありますのでご了承ください。） ● 当社のサービス取扱所まで商品をお持ちいただいた場合は、お客様宅へおうかがいするための費用が不要になります。

- 故障の場合は以下にご連絡ください。
 - ・ N T T 西日本エリア（東海、北陸、近畿、中国、四国、九州地区）の方は、
☎ 0120-248995
- 補修用部品の保有期間について
本商品の補修用性能部品（製品の性能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後、7年間保有しています。

MEMO

MEMO

MEMO

当社ホームページでは、各種商品の最新の情報やバージョンアップサービスなどを提供しています。
本商品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧いただくことをお勧めします。
当社ホームページ : <http://www.ntt-west.co.jp/kiki/>



© 2002 NTTEAST・NTTWEST

本 2348-1 (2002.10)

ADSL モデム MS2 トリセツ